

(第6条関係)

事業計画

事業名	外国人市民と日本人市民の多文化共生事業															
団体名	AAI															
事業担当課	文化観光国際課															
取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)	外国人市民の増加に伴い、以下の課題が挙げられる。 ①外国人市民と日本人市民との交わりが極めて少ない点。 ②外国人市民と日本人市民の関係性の希薄化による地域トラブルの発展への懸念(「ゴミの日がわからない」・「回覧板が読めない」・「町会費を払いたくない」など) <背景> 外国人市民との交流機会について、「大変よくある」「しばしばある」「ときどきある」と答えた人の合計の割合が、調査開始時の平成13年(11%)から平成27年(11.2%)までほぼ変化がない。(松戸市実施の市民意識調査)															
事業の目的	①参加者がそれまで当然だと思っていた自分の考え方や行動基準を俯瞰できるように促し、多文化共生意識を促進すること。 ②様々な社会的背景を持った参加者が一つの目的に向かって協働作業を行う「場」と「機会」を設けること。 ③外国人市民と日本人市民の互いの問題点を理解すること。															
事業内容	1 事業内容 ワークショップ形式による協働作業の「場」と「機会」の提供。 ① 1回5時間～6時間のプログラム(1回完結で全2回実施) ② 対象:外国人留学生・日本人大学生(各15人程度) ③ 演劇的手法を用いて人間関係構築と安心の場作り (一例) 年齢や背景によって変化がありそうなお題で、場面を作る 特定の設定で物語を作り役割を演じて、どう感じたかを共有 ④ 生活上の問題点などを共有し、解決法を探る ※ワークショップ形式にて実施 ⑤ 参加者の振り返りを適時実施 2 スケジュール <table border="1"><thead><tr><th></th><th>具体的な取り組み</th><th>実施体制、対象、場所など</th></tr></thead><tbody><tr><td>4月</td><td>開催場所の選定 周知開始</td><td>両者にて場所の選定と下見 文化観光国際課にて周知</td></tr><tr><td>5月</td><td>企画・最終確認</td><td>両者にて企画と最終確認</td></tr><tr><td>6月</td><td>プログラム実施(2回)</td><td>AAI</td></tr><tr><td>7月</td><td>プログラム振り返り</td><td>両者にて振り返りと報告</td></tr></tbody></table>		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4月	開催場所の選定 周知開始	両者にて場所の選定と下見 文化観光国際課にて周知	5月	企画・最終確認	両者にて企画と最終確認	6月	プログラム実施(2回)	AAI	7月	プログラム振り返り	両者にて振り返りと報告
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4月	開催場所の選定 周知開始	両者にて場所の選定と下見 文化観光国際課にて周知														
5月	企画・最終確認	両者にて企画と最終確認														
6月	プログラム実施(2回)	AAI														
7月	プログラム振り返り	両者にて振り返りと報告														

協働の必要性	<p><協働の必要性></p> <p>①外国人の地域社会への受入れという行政サービスを提供する役割を担うのは主として自治体であるため。</p> <p>②松戸市との協働事業であることで、参加者が「安心・安全な場」であると認識しやすくなるため。</p> <p>③松戸市から、外国人市民の人数統計・法律知識などのサポート、ワークショップの開催地の助言などを得られるため。</p> <p>④地域の学生等も交えた展開が期待でき、学びの場・町づくりにも発展できる可能性があるため。</p> <p><効果></p> <p>①外国人市民及び日本人市民相互の現状・動向・現在抱えている問題点などの情報を取得できる。</p> <p>②外国人市民との交流の機会が増えることで、市民の不安を緩和しトラブルの減少につながる。</p> <p>③自治体のみでは対応に限界のある相互互助活動を展開できる。</p>
事業実施の役割分担	<p>団体：プログラム内容の企画・運営</p> <p>担当課：実施場所の確保・参加者の確保と周知・プログラムの企画・運営</p>
既存の事業からステップアップした部分	今年立上げのため既存事業なしです。
事業の目標	<p>①参加者が「参加して良かった・楽しかった・新しい発見があった」という経験をすること。</p> <p>②参加者が「日本人・外国人」に対して躊躇や恐れを持たなくなること。</p> <p>③参加者が生活の上で抱える問題点を率直に共有できるようになること。</p> <p>【一回のワークショップの参加人数 30人】</p> <p>【ワークショップの開催回数 2回】</p>
今後の展望	将来的にはプログラム開催回数を増やし定期的な実施を目指す。また、一回のプログラムを1日ではなくより長期的に複数の日数で行えるようにする。

(第6条関係)

事業の予算計画(収支予算書)

【労力換算(限度額算入)】

(単位:円)

区分	科目	金額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 142,298	※別紙 労力換算計算書 参照

【収入】

区分	科目	金額	積算内訳
団体	会費	¥ 9,728	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	自己資金の合計額 (B)	¥ 9,728	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 87,552	
合計額(D)=(B+C)		¥ 97,280	

【支出】

区分	科目	予算額	積算内訳	
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 40,000	イベント外部スタッフ謝礼(打合せと本番) 5000円×4人×2回	
	使用料及び賃借料	¥ 22,280	イベント会場使用料 700円×8h×2回、 撮影用機材使用料 270円×4h×1回、他	
	食糧費	¥ 6,000	ワークショップ時の お茶・お菓子 3,000円×2回	
	消耗品費	¥ 18,000	テキスト・材料代 アンケート等用紙代 300円×30セット×2回	
	保険料	¥ 3,000	ボランティア行事保険料 全国社会福祉協議会の保険を検討中 : 30人×50円/人×2回 (イベント他)	
	印刷製本費	¥ 8,000	チラシ 8円×1000枚	
	対象経費の合計(E)	¥ 97,280		
(その他経費)				
	その他経費の合計額(F)	¥ 0		
合計額(G)=(E+F)		¥ 97,280		

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。

労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	プログラム企画打合せ (4回)	40,416 円	3 人 × 4 h × 4 回 × 842 円
	プログラムリハ (1回)	21,050 円	5 人 × 5 h × 1 回 × 842 円
	プログラム準備・買出し (2回)	20,208 円	3 人 × 4 h × 2 回 × 842 円
	プログラム活動 (2回)	40,416 円	3 人 × 8 h × 2 回 × 842 円
	振り返り (2回)	20,208 円	3 人 × 4 h × 2 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
	合 計 (A)	142,298 円	